

松蔭 校長室だより

—校長から保護者の皆様へのメッセージです—

2021年3月1日 発行

松蔭中学校・高等学校

校長 浅井直光

(今年度よりデジタル配信です)

またおう（会う）日まで、またおう日まで。神の守り、なが（汝=なんじ、あなた）が身をはなれ（離れ）ざれ。

(聖歌 522、卒業式の最後の聖歌)

卒業生へのメッセージ

「これからの『娘時代』が楽しみです。」卒業生の保護者の方の言葉です。「もうすぐ一緒にお酒も飲めますし。」誕生以来、18歳までの大きな成長と変化、情緒的、心的な成熟を経た娘と、大人どうしで対等に語り合うことができ喜びが伝わってきました。コロナ禍の高校の最後の1年間は、様々な面で大きな制約を受けましたが、困難のなかで粘り強く生きること、周囲への配慮や他者への思いやりなどを、より一層意識する生活ができたように振り返っています。本日、高等学校卒業証書授与式を挙行了しました。昨年に引き続き、卒業生とご家族のみの出席となりましたが、ベルクワイアー（ハンドベル部）の演奏と聖歌隊（コーラス部）の合唱「心のふるさと松蔭」のメロディーに、2万5千人におよぶ卒業生を輩出してきた学校に深く息づく伝統をあらためて実感しました。一人ひとりへの卒業証書授与に続き、高校時代最後の私からのメッセージを送りました。コロナの影響は、今後の大学生活にも及びます。卒業生の皆さんには、松蔭時代に受けた「愛」を振りどころに、たくましく生き抜く「勇気と知恵」を備えるとともに、ご家族と共に幸せな「娘時代」を送られることをお祈りいたします。

卒業式は、例年ですと、高校2年生が出席し、来賓の方々とともに皆さんを見送ります。しかし昨年も今年も、感染症の流行により、卒業生とご家族のみの式です。1年が経ち、「いったい、いつまで続くのだろうか」という会話を耳にすることが多くなりました。とはいえ、マイナス思考のまま、視線を足元に伏せて歩くことが決して適切ではないこと、コロナ後の社会を見すえ、前向きに生きて行かなければならないことも、私たちは理解しています。

「未来年表」という年表があります。野村総研という社会情勢を分析する会社が15年前から毎年公表しており、文字通り、未来を予測する年表です。「政治・社会」「経済・産業」などの分野ごと、予定されている出来事が記され、例えば2025年の項目には「エキスポ2025・大阪・関西万博」と載っています。

去年発表された「未来年表」には、「キャッシュレス・自動化・無人化」や「働き方改革」が取り上げられていましたが、感染症対策により、すでにキャッシュレス、リモートワーク、テレワークは現実のものになっています。10年後、皆さんが20代後半を迎える時、その世代の約8割の人が、会社勤めをしながら副業を持つ、いわゆるマルチジョブとなり、その10年後には、企業の6割以上がテレワークになること。皆さんも「アラフィフ」と言われる年代に入る2050年代、世界人口が100億人を超える一方で、日本の人口は減り続け、少子高齢化がさらに加速します。医療がさらに進歩し、皆さんの多くが元気に満百歳を迎える西暦2100年代、22世紀に入る日本の人口は、現在の半分になります。想像がつかない社会、というのが正直な感想です。不確実な未来、予測不能な将来を迎えることにはなりますが、その世界を生き抜く「勇気と知恵」が求められます

松蔭高校のスクールモットーはご承知のとおり「オープンハート、オープンマインド」ですが、学年ごとにそれぞれの目標や標語を決めて、合言葉としています。今年度は、高校1年生は「人はそれぞれの歌をもつ」、高校2年生は「尋ねよ、されば見出さん」です。高3の学年の標語は、「愛」の一文字でした。礼拝でも聖書の授業でも、いつも神様の愛について、聞かされてきました。教室前の廊下の掲示板には今日も大きな「愛」の一文字が掲げられています。職員室扉を開けると目に入るの、高校3年生のデスク横に掲げられた「愛」です。いつも「愛」の言葉を聞

き、眼にしていた皆さんの心の中には、きっと様々な形の「愛」があるように想像しています。

松蔭では、入学式でも、また折に触れて次のような話を聞きました。「皆さんはクリスチャン、ノンクリスチャンに関わらず、神様が最も相応しい場所としてこの学校に導いてくださり、一人ひとりを大切に愛している。だから愛されている者同士、互いに心を開いて大切に思い接し合いなさい。」松蔭の卒業生の数は2万5千人にもおよびますが、だれ一人余すことなく神様から「愛」を与えられてきたように思いますし、この言葉を標語とする皆さんは、松蔭の歴史上で最も色濃く「愛」に触れてきた学年だと思います。父様、お母さまをはじめ、ご家族からの「愛」もまた、皆さんがその深さに思いを至らせているかどうかは別にして、確かに与えられてきました。

「愛されることよりも、愛すること求めよう」 聖歌『あなたの平和の器にしてください』の一節ですが、皆さんは、愛されるだけでなく、愛することも経験してきたように感じています。職員室では先生方の中で「あの生徒は友達を大切にする子です」「この生徒は本当にお母さん思いで…」という会話が交わされていました。「松蔭生にこんな親切をしてもらった。感謝の気持ちを伝えたい」という電話が私のもとに届きます。皆さんが他者に示した思いやりや親切です。今年度のバザーは残念ながら中止しましたが、例年、その収益を福祉関係の施設に寄付してきました。ポートアイランドにあるチャイルドケモハウスは、病気と闘う子供たちの施設です。チャイムと同時に廊下をけたたましく走り抜けた、パン販売のにじ作業所は、障害を持つ方の就労施設です。松蔭の生徒さん方には感謝の気持ちしかありませんと、毎回のようにお礼の言葉をいただきました。皆さんは、自然に愛することもできる人になっていると思います。

ところで、人がある尺度によって比較され、選ばれる人、選ばれない人に分かれる局面に出会うことは、入試や就職活動の現実です。学校の成績では、絶対評価、到達度評価として算出され、本来人と比べるものではない形ですが、「席次が上がった」「下がった」「偏差値が云々」と、相対的に位置付けられてきました。朝のテレビのニュースワイドショーでは占いランキングがあります。占いで人と比較することなど全く意味が無いことは当たり前ですが、「第1位はやぎ座です」と発表されると心がはずみませんが、「ワースト第〇位」にランクされていると、少しがっかりして出かけることになります。

しかし、「愛」の大きさや量を人と比べることはありません。良し悪しありません。「愛」に偏差値やランキングは存在しません。絶対的な価値です。「神様に愛されていることを覚え、人を愛し、人を大切に考えて小さな行動を重ねる。」そうすることで、自分のなかに「愛」が確かに存在します。先程、未来年表に載る私たちの将来は、不確実な時代、予測不能な時代と述べました。私から皆さんへの高校生活で最後のアドバイスは、松蔭時代の学年の標語を、これからも皆さんの生涯の標語、自分の人生のモットーの一つに加えておく、というものです。皆さんと同世代の女性アイドルグループ、ラストアイドルが数年前、「愛しか武器がない」という楽曲を歌っていました。「武器」という言葉に少し戸惑いを覚えましたが、不確実な時代に、眼の前に現れる困難一つひとつに打ち克ち、人生を生き抜く「勇気と知恵」だと考えても構わないのではないかと。松蔭時代に、神様に見守られ、愛すること、愛されることを経験してきた皆さんは、卒業後も引き続き一人ひとりが「愛」をそなえ、自分なりの「愛」を小さな行動に移す人になっていただきたいと思います。松蔭生活を通して経験した様々な「愛」は、人間の「勇気」となり、「知恵」となり、自分を守る「武器」となることでしょう。

最後になりますが、この1年、私は皆さんの姿を見ていて、いつも20数年まえの卒業生のことを思い起こしていました。それは、高2の冬に阪神淡路大震災を経験した学年です。地震の発生以来、学校生活が制限され、元通りの学校生活が完全に戻ったのは2学期からでした。「思い起こした」ことは、この学年の生徒たちの卒業後の活躍の幅広さです。進路では難関の国公立大や私大に一般入試で合格する生徒が多くいる一方で、短大卒業後にデザイナーとなりファッション業界で活躍した人、劇団に入りミュージカル俳優を目指す人がいました。起業し会社を経営する人、レストランを経営する人、生命科学の研究者として活躍する人など、自分の夢や、やりたいことを現実のものとして生きている卒業生が多かったのです。その学年の担任をした先生と、「この学年の生徒の活躍はすごいですね」と話したことがあります。その先生のコメントは「震災を経験したからじゃないか」というものでした。自宅が全壊して避難所にいる生徒を訪ねてみると、段ボール箱を机にして懸命に勉強する姿を目にしたそうです。高2の終わり

から高3の1学期にかけて、進路決定の重要な時期に制約を受けた学校生活を通じて、その学年の生徒たちの間には「自分の道は自分で切り拓くしかない」と努力する空気が生まれたように思う。大学進学後も、社会に出た後も、高校時代の経験から得たものが発揮されたのではないかと分析しておられました。

皆さんの高校生活は、高2の終わりからこれまで、また、卒業後の生活においてもコロナが影響を及ぼそうとしています。しかし、皆さんは高校最高学年としての意識を持ち、限られた中で行事をやり遂げ、希望する進路を実現し、BEPの活動をやり遂げました。いつの日か、松蔭時代の皆さんを知る者たちの会話に、「コロナにくじけずに高校生活を全うした学年だった」「コロナがあったからこそ、今、活躍する人が多いのだろう」と、誰ともなく話題にする日が来ることを心から願いますし、そのことが必ず実現すると確信します。

人生のうちの数年間、私たちは共に松蔭の空気を吸い、困難を共有しました。本日は一同に会する最後の日です。互いに励まし合い、勇気を持ってこれからの時代を生きぬことを皆で誓いたいと思います。

ご卒業を心よりお祝いいたします。(2021年3月1日 松蔭高校第73回卒業式 校長式辞より)

3月の行事予定

校内での主な行事の予定です。生徒が参加する行事の詳細は、各学年からの連絡でご確認ください。

3月 1日(月) 高校卒業式

3月 5日(金) 誕生日礼拝

3月 6日(土) 高校授業②校時まで 教科書販売・配布(中1~高2)

3月 8日(月)~11日(木) 学年末考査

3月12日(金) 球技大会

3月13日(土) 中3心臓検診 英語レシテーションコンテスト(中学) 高校生は自宅学習日

3月15日(月) 大掃除・答案返却

3月16日(火) 自宅学習日 中3希望者実力試験

3月17日(水) 自宅学習日

3月18日(木) 中3卒業式予行 他学年自宅学習日 中1DS、中2希望者実力試験

3月19日(金) 終業式 中学卒業式 松蔭賞授与